

平成26年4月10日

芦屋市企画部市民参画課
課長 福島 貴美 様

(あしや市民活動センター指定管理者)
特定非営利活動法人あしやNPOセンター
事務局長 橋野 浩美

芦屋さくらまつりボランティアコーディネート事業報告書

1 事業名：芦屋さくらまつりボランティアコーディネート事業

2 参加者：143名（14団体） ※数字は両日の延べ数

クラーク記念国際高等学校（40名）	芦屋市婦人会（10名）
芦屋学園高等学校ボランティア部（13名）	ふくの会（15名）
県立芦屋高等学校ボランティア部（10名）	芦屋大学 Aqqua（22名）
朝日ヶ丘町自治会自主防災会（7名）	尼崎信用金庫（6名）
あしやNPOセンター（10名）	個人（10名）

3 実施日：平成26年4月5日（土）・6日（日）8時00分～20時00分

4 担当：橋野、興津

5 内容について

(1)目的：来場者にクリーンな会場でさくらまつりを楽しんでいただけるよう、清掃ボランティア活動のコーディネート及び清掃活動を行った。そのほか、運営協力として出演バンドの楽器・弁当運搬、臨時駐輪場の交通整理等のコーディネート及びボランティアを行った。

(2)検証：個人から学校、婦人会、自治会などの地元団体に至るまで、市内外から多くのご参加があり、各々で熱心にご活動いただいた。
クラーク記念国際記念高等学校は学校行事の一環として参加いただいた。ボランティアテントを設けていただいたことで、ゴミ箱の設置場所、収集方法等の説明ができ、ボランティアの方との情報交換もできた。
ボランティア終了後、市からのお茶と、(特活)あしやNPOセンターから豚汁をふるまい喜ばれた。
昼食、夕食時ではボランティアが不足し、その他の時間帯では余剰感があった。次回は配分が上手くいくよう、募集時に活動時間を見直す必要がある。
ゴミ箱の分別表示が見にくかった。
ダンボール等、明らかに出店団体からのゴミと思われるものが出されていることがあった。ゴミ集積所に持っていきよう徹底して欲しい。
まつり終了のアナウンス後のゴミ撤収作業中に、ゴミ箱周辺にゴミを出される団体があった。
まつり終了後ゴミ集積所の分別が守られておらず、ボランティアで最後まで分別した。

- (3) 今後の対応：お祭りならではのボランティア活動の付加価値を高めるために工夫
ボランティア受付テント内で豚汁を提供するなど交流スペースを設け、参加者間の交流が深まるような仕掛けをしたい。
特に学生ボランティアに対しては、指示的にならず、自分たちで考えて行動してもらいようなボランティアコーディネートを試みたい。
ゴミ箱の分別表示を立て札型にしたほうがよい。無機質なものではなく「分別ありがとう」など子どもたちにも書いてもらうのもよいかもしれない。
ゴミ箱に設置するゴミ袋はガムテープ止めより、クリップ止めにし、ゴミ袋の交換がよりスムーズに出来るような工夫が必要
出店団体のテント周辺のゴミは拾いにくいので、団体に処理するよう周知して欲しい。
汁物があるので袖口をカバーするビニールの脚絆等が必要と思われる。

(4) 参加者感想：

今回が初めての参加だったが、活動を通じて普段接点のない人たちと交流ができ、とても楽しかった。また参加したいと思う。
拾えるゴミがあまりなかった。(朝一番などの時間帯であったため)でも、客席を回るなど、ゴミを集める工夫をしながら活動できたのは楽しかった。
ゴミ箱の中が概ね綺麗に分別されていた。芦屋市民のマナーの高さを感じることができ、嬉しかった。
幕間放送で、団体を紹介していただいたのが嬉しかった。



以上